＜口腔の役割＞

丸呑みの表情

十二支の 6 番目の動物は巳（み）、つまりヘビになります。ヘビといえば獲物を「丸呑み」する姿を思い浮かべる人が多いでしょう。ヒトと違いヘビはなぜ大きな獲物の丸呑みが可能なのでしょうか。

ヘビは手足が退化して肩甲骨や鎖骨が無くなり、食道の拡張が可能です。胴体は左の肺を退化させて右の肺だけにしてその肺を体の中に平たく長く伸ばしているために大きな獲物を通過させることができます。また、ヒトの顎関節（がくかんせつ）は耳の前にありますが、ヘビの顎関節は頭のずっと後方にあるため口を大きく開けることが出来ます。さらに下顎の骨は真ん中で割れているので、左右にも大きく広げられます。そしてヘビが口を大きく開けた時すかさず見てみましょう。下顎の先端の近くにぽっかり穴が開いていてそこからパイプの構造が喉まで続いているはずです。これが空気の入口、つまり気管につながる喉頭（こうとう）で、呑み込んだ獲物が喉に長居してもシュノーケルを使うように息ができるのです。しかもヘビは咀嚼せずに丸ごと呑み込むためによりいっそうの唾液が必要になり、唾液腺がよく発達しています。ですからヘビは喉や食道に大きな獲物が長居しても決して苦しくなく、窒息もせず無表情でクールに丸呑みを完遂させるのです。

舌の奥に喉頭（空気の入口）が見られます

一方でヒトはどうでしょう。ヒトは生活するために手で道具を使い、二足歩行で動き回り、そしてコミュニケーションの手段として声を出せるように

進化してきました。実はヒトが身に付けたこの「声」は窒息のリスクと引き換えに独自に進化したものであり、気管への空気の入口と食道への食べ物の入口は喉の奥深く、まさに隣同士にあり、ヘビに限らず他の動物に比べて誤嚥や窒息をしやすい生き物なのです。

窒息は高齢者ほど発生する傾向があり、特にこの時期は餅を喉に詰まらせる事故が毎年起こっています。農林水産省は「餅を喉に詰まらせない食べ方」として、①1 人では食べないようにする、②小さく切っておく、③お茶や水で喉を湿らせる、④よく噛んで唾液と混ぜ合わせながら飲み込む、⑤それ以外に気を付けることとして、しゃべりながら、歩きながら食べてはいけない。また、食べる姿勢にも気を付け、背筋を伸ばしてあごを軽く引いて食べるようにする、と注意喚起しています。

（正月に余った餅の食べ方・保存法：農林水産省
https://www.maff.go.jp/j/pr/aff/2001/spe2_04.html）

さて丸呑みしているヘビの顔は無表情といいましたが、そもそも顔の表情は顔面表情筋によって作られるものです。われわれ哺乳類は赤ちゃんの授乳に始まり、成長しながらの捕食、咀嚼によって表情筋が発達します。ヘビも授乳できていたらその表情も豊かだったのかも知れませんね。

【歯科口腔外科診療部長　今井　正之】